

寅さん歩 その22

東京2020 聖火リレー-15

北海道-3



写真右上は東京2020オリンピックの聖火リレーのトーチを掲げる平野寅次郎こと平野武宏です。全国のウォーキング大会を映画「男はつらいよ」の寅さんのように歩き回ったので妻の友人から「平野寅次郎」と命名され、ペンネームとしています。右上の写真は都庁でのトーチ公開時に撮影しました。パラリンピックのトーチも色違いであります。

東京2020大会の聖火は2020年3月26日に福島県をスタートし、移動日を含む121日をかけて47都道府県を回り、7月24日の開会式会場に到着します。

なお、2019年11月30日に完成した「新国立競技場」は2019年12月15日の竣工式を終え、「国立競技場」と呼ばれます。

寅次郎、八柳修之さん作成の「バーチャルウォークで沖縄から新国立競技場へ聖火を運ぶ（仮想コース）」を行い、通過した都道府県の寅次郎のウォークの思い出と映画「男はつらいよ」で寅さんの恋の記録をお話ししました。

映画「男はつらいよ」は第1作の公開[1969年(昭和44年)8月27日]から50周年となり、記念して2019年(令和元年)12月27日に第50作「男はつらいよ お帰り寅さん」が公開されました。寅さん役の渥美清さんは1996年(平成8年)に亡くなっていますが、今までの作品の寅さんが技術を駆使して登場します。

「寅さん歩」も映画の50周年を祝って一足早く全国の聖火リレーのコースを紹介しながら、前回のバーチャルウォークで通過しなかった道県での寅次郎のウォークの思い出と寅さんの恋をお話したいと思います。各県名の脇の月日は実際に聖火リレーが行われる月日で、コースはスタートとゴールの予定地です。なお、2019年12月17日聖火リレーの詳細が発表されました。

〔北海道-3〕 2020年6月14日～15日

聖火リレーコースは6月14日 函館市～白老町、15日 苫小牧市～札幌市です。

映画の寅さんのこれまで紹介していない北海道での足跡を紹介します。

1984年（昭和59年）8月公開の第33作「男はつらいよ 夜霧にむせぶ寅次郎」で寅さんは根室・釧路・中標津に登場します。

裏の印刷会社タコ社長の娘あけみの結納、旅先の寅さんからは満男の入学祝に小さな地球儀が届きます。盛岡で出会った堅気になった舎弟の登に度を越した、もてなしは良くないと諭し寅さん北海道の旅へ出ます。釧路で自称ふうてんの風子（中原理恵）と出会い意気投合します。同宿の妻に逃げられた男も加わり三人旅です。風子の伯母がいる根室ではサーカスの花形トニーが風子に近づきますが、寅さんは「渡世人は良くない」と諭します。トニーから風子が病気との知らせで、風子をとらやに引き取ります。とらや一家の看病で元気になった風子、トニーに会いに行くと飛び出して寅さんを怒らせます。根室に戻った風子から別の真面目な青年と結婚すると招待された寅さん、時間に遅れて山越えで結婚式へ向かい、熊に追いかけてしまいます。風子との温かみのある掛け合いが味わい深い作品です。



1987年（昭和62年）8月公開の第38作「男はつらいよ 知床慕情」で寅さん

札幌、阿寒湖、知床、斜里に來ています。おいちゃんが肺炎で入院、とらやの休業中に寅さんが戻りますが、頼りにならずまた旅へ出ます。知床で武骨な獣医の車に乗せてもらったのが縁で居候を始めます。旅先では見違えるように、しっかりしている寅さん、獣医とスナックママとの仲を取り持ったり、結婚に破れて東京から戻ってきた獣医の娘 りん子（竹下景子）の相談相手になります。獣医には「愛していると女の前で言えなきゃ 男は惚れていることにはならない」と恋路のサポート役です。でも、りん子に一目ぼれの寅さん、りん子には自分の気持ちを告げられずに去って行きます。柴又を訪ねて来たりん子、さくらに「寅さんは人生にもっと楽しいことがあることを思い出させてくれた人」と褒めます。寅さんとりん子の二人、誰かに背中を押してもらえればよかったのと思う寅次郎です。知床の大自然が素晴らしく、大自然が準主役の作品です。



北海道の味を思い出す駅弁たちです。いずれも東京駅の駅弁屋で買えます。



三宝めし (旭川) 1180 円



いかめし (森駅) 780 円



海鮮七福弁当 (南千歳駅) 1150 円



北の海鮮鮭 (南千歳空港) 1290 円

聖火は岩手県へ引き継がれます。

次回は 東京の博物館めぐり-4 です。

平野 寅次郎 拝